

市長と語る～まちづくり懇談会～ 武並

日時：令和元年6月18日（火）午後7時～8時30分

場所：武並コミュニティセンター

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 武並町について。人口は平成30年、3017人、減り幅はあまり多くはない。激減はしていない。子どもの数は平成30年で19人。転入している人を加えると20人。29年は10人だったが3人転入しているので13人いる。

恵那テクノパーク。現在14社、1600人が働いている。今は人手がないので、2割ぐらい、300人を超える人が外国人だと聞いている。

瑞浪恵那道路にかかわって、地籍調査に御協力をいただきありがとうございます。瑞浪恵那道路周辺を含めて、重点的に地籍調査に取りかかっている。この場を借りてお礼申し上げる。

恵那市で武並町の位置付けは交通の結節点の意義が大きい。リニア中央新幹線が通る。すぐ隣に駅ができる。中央自動車道も19号も通っている。JRの在来線も通っている。新たに瑞浪恵那道路ができる。東濃地域の主な交通のすべてがここを通っている。かつ、南北の418号という幹線道路が通っている。西、東、北、南への結節点としての意味合いが強い。それもまちづくりの一つの視点として考えられる。

意見交換 テーマ「地域計画の推進」について

■司会 第2次地域計画が平成28年から令和7年度の策定で、5年を目途に見直すことになっている。地域計画を推進するに当たり、武並町が目指すまちづくりについて考えていきたい。

まず地域自治区会長から話がある。

・地域計画の概要

■地域自治区会長 恵那市は非常に元気の良いまちなので、武並町もそれについていかなければならない。武並町の説明をする。

恵那市の地域計画。我々が役をやる前からこういうスケジュールがある。瑞浪恵那道路の計画等の予測される環境変化を踏まえて武並町は、住環境重視の町づくりを推進、人口減少を抑止ということで、武並地域自治区の計画は、キャッチフレーズが「住めば好きになるまち たけなみ」で、計画の柱として3つある。1. 地域が見守る福祉のまち。2. 人が

行き交う交流のまち。3. 活気あふれる自立のまち。地域が見守る福祉のまちとして、安心して子供が育てられるまち。高齢者や体の不自由な方に優しいまち。笑顔で住み続けられるまち。人が行き交う交流のまちとしては、観光資源の有効活用、人口減少の抑止、武並駅および周辺の有効活用。活気あふれる自立のまちとしては、地域特産品の研究開発、地域活動組織の改編、イベントの発信。というようなことに基づいて武並町を今後どうしていくかで今一生懸命努力している。

武並駅周辺の整備について。暫定なので全部がこの通りにはいかないが、武並駅からスケート場下辺りまで、道路アクセスを変更してバイパスを上手く利用して開発したいという案。駅から右側、森林環境として保全したらという案、駅から左側、線路沿いに 418 号までの道路を造っていただき、商業施設と住宅地の開発にしたいという案。そして、まだ決定ではないが、418 号の道路が平面交差、高架になったりする。今プランを国土交通省にお願いしている。ランプ方式になるのか平面交差になるのかは今後詰めていく。

道の駅も皆さんが思う道の駅ではなく、できればもっと外食産業が来たりいろいろなプロに任せただけのお店をつくったりするような構想。いわゆる駐車場兼公園。若い人の意見では子どもの遊ぶ場所がないということなので、そういう部分を構えてどう道の駅を開発していくかというところが一番課題だ。

美濃地区に上がっていくところにカーブがある。バイパスの横に 2 車線の道路を上下線入れるようなランプ方式の交差点などをつくって武並町の生活道路をつくってもらう形になると思う。

駅の周辺、市とも相談しながら、立体駐車場を作り、三郷地区、笠原地区等の皆さんが通勤通学できる位置にしたい。そういうのが大枠の構想だ。

まだこれからいろいろ中身を詰めていくが、まずはこういう構想を掲げ、皆さんの意見を聴き、それぞれ順次、第 1 期、第 2 期という形で、先々、若い人の生活環境を良くするという形で進めている。

中部大学の研修センターがある。学校も教育の場で、スケート場をうまく活用した学校との連携をお願いしながら、道の駅や住宅地のところを開発していきたい。講演で聞いたことがあるが、大学があるというのは、若者が生活する学生寮があったりして、結構人が動く。そうするとコンビニがもっと要るとかということになるので、中部大学の研修センターも上手く活用して、野外運動の施設を作るとか宿泊というふういろいろな部分で活用していくと、武並町ももっと開発できる。

■司会 意見、提案を聞きたい。この地域に住んでいる人、子育て世代の人の意見も聞きたい。まず、地域の周辺の整備について。建設的な意見をいただきたい。

・地域計画の施策について意見交換

■市民1 一時よそへ出て行って戻ってきた。現在は竹折生産森林組合長をやっている。日頃は市長初め市の職員に大変御指導いただき感謝している。当地では、従来から財産区、森林組合を初め、住民を挙げて市の行政に全面的な協力、バックアップを行なってきたと思っている。今後も将来にわたり住民のより良い生活のために、武並町を挙げて、市のすることについてチェックもするが、全面的なバックアップをしたい。

市長が就任以来掲げている「はたらく」「たべる」「くらす」、これは地域自治区会長が考えた、「住めば好きになる たけなみ」に共通する考え方だと思っている。住みよいまちということになると、自然環境、治安、医療、通勤通学に便利、買い物にも便利、教育関係、文化関係等の調和した住環境の整備が必要になってくる。この地区だけではそのような施設を充実するのは難しい。他地区との連携、協力を踏まえて行なっていくべきだと思う。幸い、長年要望してきた瑞浪恵那道路の事業化が決定した。近々工事に取り掛かると思う。希望していた道路の形態とは若干異なって、ミニ高速化の道路にはなったが、最大の課題だった国道19号の渋滞緩和は確実に解消されると思う。

そこをお願いだ。武並町の計画にほとんど網羅されているが、その中で少しだけ念押ししてほしい。この道路を最大限活用するためには、アクセス道路が最大の課題だ。これは住民の希望に沿って整備してほしい。これによって他地区への通勤通学が便利になり、広範囲な武並町の住宅地としての用途が広がると思う。

駅周辺の整備について。この地域には、JR武並駅、クリスタルパーク、中部大学、瑞恵道路が集約している。この整備並びに駅へのアクセスは大変重要なことだと思う。この地区を整備することにより、住民のみならず他地区からの住民が当駅を利用する。ということで、人口流入も図れる。大学との連携。中部大学がこちらに施設を設けたのはいろいろな経緯がある。当初は1学部をつくるという話で武並町も協力して土地提供も行った。連携というよりも、市長はじめ、地元も含めて大学への強力な働きかけを行い、研修施設から格上げして研究施設を作っていただくことにより、若者の流入が図れると思う。こういうことを行なえば当然人口も増える。従って、民間企業が当地に進出して商業施設等も出来上がるということになれば、住民としても生活も向上する。

道の駅については、いろいろな団体で視察に行った。大半が運営は赤字。従来型の道の駅はとても成り立っていないという結論が大半だ。

道の駅初め、武並町の5年後、10年後未来を描く必要がある。これについては、私ども老年者よりも今後を担う若い人の意見を十分取り入れて、市の協力態勢の下に、武並駅周辺整備検討委員会の皆さんは大変だが、御活躍いただきたい。

リニアと道路の工事関係。リニアの残土の排出については従来からお願いしていた。安全性の最大限の確保をお願いしたい。市もだが、業者に対しても市から言っていただきたい。もう一つ、リニア道路工事で立ち退きを余儀なくされる人が数軒ある。希望する人は、

町内、市内に住宅を確保という観点から、市として最大限の措置を取っていただきたい。

最後に、私が思うことは、未来を担う子どもたちが明るく元気な声で響き合う町であってほしいということだ。

■司会 子育て世代の代表から提案をお願いします。

■市民2 私からは、今日明日とか1年2年ということではなく、子ども達が育っていく10年後の未来に向けて武並町がどういう形をとっていくべきかを考えて提案する。

私も上の子が20歳で、一番下が小学校6年生。兄弟で10年近い差があり、久しぶりに小学校の活動に参加した。どうしても姉たちの時代と比べる。小学校の建物が大きく変わるわけではないが、授業の内容が大きく変わって、子どもたちを育てる環境も見えないところでものすごい勢いで変わっていると肌で感じている。子どもたちが10年後、ちょうどリニアと瑞恵バイパスができ、恵那の開発も大きく進んで、出来上がった頃に大人になっていく、今の小学生や今学生で外に出ている子たちが就職して、今後将来最終的にどこに暮らして子どもを育てていくのかというときにちょうど当たるので、そのとき武並はどうあったらこの子たちにとって住みやすい場所なのか考えてみた。

姉たちは恵那から出ているが、心が疲れて、ちょっとしたときには帰って来たくなる場所のようだ。そのとき、JRが通っているのどこにいてもいつでも帰って来られるというのはすごくメリットだ。子どもたちが望むことは、この武並が環境的に大きく変わるのではなく、田舎であるということ満喫したいのだと思う。武並は平場がそんなにたくさんあるわけではなく、駅周辺は開発されるにしても、私の住んでいるのは藤の一番奥で、そこまで大きく開発が進むということは考えられないが、その子たちが、「住めば好きになる」というところだ。田舎だけど住んだらすごく好きだと思ってもらうためにまず必要なことは、10年後の2030年、大きく時代が変わると言われているこの世の中で、田舎から不便だとか田舎だからできないということがなく、田舎だけど住んで便利、田舎だけど何も困らない環境づくりが必要。武並駅周辺の開発など、いろいろな新しい開発が行なわれていく中で、そこを考えながら進んでいていただきたいと思う。

具体的にはITの活用。田舎で景観を変えないで中身を変えるには、ITの環境整備をしっかりとやっていく。将来的には武並町のどこに住んでも無料Wi-Fi（ワイファイ）が飛んでいる、自動運転の自動車がどこでも走れる、そういう環境づくりを10年かけてやってきて、恵那の西の玄関口ということで、名古屋へ仕事に行っても必ず帰って来られる。個人的には武並に就職してくれとは思っていない。どこに就職しても武並に住んで困らない、仕事ができる、そういう町、最先端の困らない町を作っていただきたいが、現状では、子どもたちに帰ってきてねとは言にくい。子どもには、「どこかで就職しなさい、ここ

でできる仕事に就きなさい」と。そのためにはそういう環境が武並にないといけない。家にいながらときどき会社に行くというスタイルを作っただけならば、ここは住むにはすごく良いところなので、住んで困らない町を目指していけると思う。武並町も開発の中で、将来どうなっていくか分からない未来を一生懸命想像しながら、そこに希望を持って進んでいただきたいと思います。

■市民3 子育て世代まっただ中だ。小学校2年生、4年生、6年生の3人の子どもがいる。その中で普段感じていることを提案する。

武並町には公園がない。榎ヶ根の遊具は、小学生になれば十分遊べるが、小さい子が遊べる場所が少ない。今回の瑞浪恵那道路、道の駅、駅裏開発を公園造りにも役立てていただきたい。遊具は管理が必要なので難しい面があると思うが、芝生がある開けたところ、子どもたちが走り回れる公園づくりを考えてほしい。私も武並で育った。大学から外に出ていた。十数年前に武並に戻ってきた。そのとき考えたのは、恵那市のこの近辺で就職したので、中津、恵那市、いろいろ土地を見た。ただ、私は武並が好きだった。武並に帰って来たくてこちらで土地を見つけた。そう思っている人が、公園などがたくさんあると、こういう良いところがあるという話で、お父さんお母さんがつながっていき、将来的に1人でも2人でも移住してくれる人が増えると良いと考えている。そういう公園を足掛かりに造っていただきたい。

通学路について。国道19号、418号、工業団地。大きな道路と工業団地がある。千何百人が通勤している。交通量も朝・夕方は多い。工業団地でも通勤路を考え細い道を通らないように配慮頂いていると聞いているが、それでもやはり町の中を抜けていく車がある。子どもの通学の時間帯と通勤の時間帯が重なっている。そういうところに限ってガードレールがない、歩道がない、細い道を通らないといけないことになる。全国的にも登校時に車が子どもたちの列に突っ込んで亡くなる悲しい事件も増えてきているので、そういうことを避けるために、瑞浪恵那道路の開発に絡めて、バイパスにアクセスする道路を整備していただき、子どもたちが登校する通学路に車が少しでも減らして安全に登校できるような開発を念頭にいただき道を造っていただきたい。

リニアでは土の運び出しでかなりの数のダンプが通ると思う。それに絡め、該当地区は登校の道順を変えたりする検討もしている。こちらもそういう配慮はしているがそれだけでは限界があるので、ハード面の整備もお願いしたい。

■司会 地域自治区副会長からコメントをお願いします。

■副会長 市民1さんが言われたのは、駅周辺のアクセス道路の整備や19号の渋滞緩和、

リニアで立ち退く人の移転の流出を防ぐために住宅を確保したいこと。中部大学の学生が武並駅を使って通学できる流れになれば非常に多くの学生が来るので非常に良いこと。中部大学が来るということで最初は大学生が来るかと思ったら研修センターで、それほどの利用客がない。学部が1つ来れば何百人という生徒が武並駅を利用して非常に良いことなので、ぜひ恵那市からも学部の移設などについて強力的にお願いしたいということだと思ふ。

市民2さんの意見は、Wi-Fi（ワイファイ）がどこでも飛んでいて使えるような地域にしたらかどうかということと、子育てのこと。田舎なりに良いところがあり、自分の息子や娘にも田舎に戻って来いということで、10年20年先を見据えた武並を作っていったらどうかという提案。

市民3さんは、交通災害が最近多いのでそういうことがないようにガードレールを作るとか、瑞浪恵那道路のバイパスができれば19号が緩和される。少しでも通学路の自動車が少なくなるように対策を講じるとか、子どもたちが自由に遊べるような、駅南の周辺に公園を作ったらどうかという意見。

これらの意見を、今日が初めとして、これから町民のいろいろな意見をいただきながら、徐々に一歩ずつ確実に進めていきたい。昨年の2倍、3倍の皆さんに集まっていた。昨年と今年でもうずいぶん変わっていると認識している。特に恵那瑞浪道路ができることにかかわって、この際武並を良くしていこうという気持ちがこの人数の表れだと思っている。これからも事あるごとに皆さんの声を聞いてより良い武並を作っていきたい、一歩前進していきたい。

特に市長に聞きたいのは、中部大学の学生が駅周辺にすごくたくさん集まって通学するようなものを作っていただくために、中部大学に学部なりを持ってきていただくように働きかけていただきたいが、どのようにお考えか。

■市長 一つずつコメントしたい。

瑞浪恵那道路のアクセス道路、駅周辺へのアクセス、道の駅等の計画について。武並駅周辺整備検討委員会が地元で立ち上がっている。まずその中で、いろいろな絵を皆さんで検討いただき、建設部の職員もその中に入っていると思うので、市として考えられること、国としてできることもきっとあるので、まず絵を描くところからスタートしてほしい。その中で少しでも地元にとって必要なものなら、要望してほしい。

中部大学。市民1さんからは研究施設として格上げをと。副会長さんからは「学生が来ると言ったじゃないか」というお話。一つは、クリスタルパーク恵那と中部大学のグラウンドは隣接していて、地域の皆さんも一体的な整備、利用について検討いただきたい。2つ目は、私も中部大学に行っているいろいろな話をしてくる。もう少し中部大学と連携を深めたい。総合計画の座長も中部大学からお願いしている。産業振興会議のようないろいろな学

識経験者は中部大学から出してもらっている。そんなところの結び付きもある。

そして、リニアが来的时候に今一番私たちがやらないといけないのは、研究開発施設の誘致。古屋先生も含めて、リニアで品川から 40、50 分で岐阜県駅に来た後に、この地域がものづくり、最先端技術の研究開発の施設として十分に立地できるということを検討し始めている。これは岐阜県、恵那市もすでに条例まで作って、誘致のためのインセンティブを与えるということをやっている。これをもっと進めないといけない。そういう情報を出す中で、「中部大学がどう考えますか」、ということもしていきたい。今、国レベルでは岐阜大学と名古屋大学が統合という話がある。統合して、その後に研究開発、特にセラミックは東濃西部、ものづくりは東濃東部がベストだということで、こういった方に大学院を含めた施設の立地ができないかという検討が水面下ではスタートしている。実際できるかどうかはこれからの話だ。私もできる限り動いていく。

道の駅も、検討委員会で議論してほしい。どんなものが良いか考えてほしい。

リニア工事の安全対策について。改めて申し上げたいのは、リニア安全対策は喫緊の課題だ。中津川では山口のトンネルを掘っているところに行ってみたがかなりの数のダンプが走っている。これをいかに安全にやるか。これは地元の声を出していただくことと、運搬する業者、施工する業者との間の話し合いになる。そこは私どもも一生懸命皆様の側に立って汗をかいてまいりたい。

市民 2 さんにいただいたのは非常に面白い話。田舎だけど便利で困らないまちをつくるということ。まさに私もそのように思う。そのためのツールとしての IT、ICT、AI の技術は絶対に必要だ。田舎、もしくはハンディキャップがある人、ハンディキャップがある地域こそ IT や ICT の力を借りたら良いということ。音声を読み上げるソフトがあるから文字を読んで聞ける。体に不自由があってもいろいろな機械ができて自分の意思で動くようにできる。このように、条件が不利な地域でも、それを逆手に取って、すばらしい自然環境とおいしい食べ物がある中で最先端の仕事ができるということも良いと思う。その第一歩として、小学校すべてに一人ずつ行き渡るようにタブレットを用意した。今日のほかの市町のニュースでは、まだ各学校で 10 台ぐらいというところもある。私どもはできるだけ早く環境を調べ、勉強する場所をつくらうとしている。今年はすべての小学校、中学校に電子黒板として大きなモニターも用意した。引き続き、アミックスというケーブルテレビも活用しながら使っていきたい。

公園について。新規に公園は計画しづらいが、駅周辺の瑞浪恵那道路、スケート場、駅の駅の中に入れていただいで考えていただきたくのも良い。それ以外にも、小学校の近くや、こども園、その向こうにも公園があるので、そういったところも含めて、どういう活用が良いか地元の皆さんで検討して意見をまとめてほしい。

ガードレールの話。昨年は 7 月に大阪で地震があり女の子がブロック塀の下敷きになっ

た。それに対応して日本中あちこちの自治体でブロック塀の取り壊しをした。今年は 5 月の 8 日に大津で車が子どもたちの列に飛び込んだ。それを受け、市の建設担当で調査した。調査した 83 カ所のうち、安全対策が必要な箇所が 66 カ所。ただこれがすべてではない。地元の皆さんで危ないところを情報として寄せてほしい。国道は国が管理する。県道は県が管理、市道は市が管理する。国、県には私から強く要望する。市の部分は、予算の範囲で、順に対策をとる。すでに動いている。

■司会 ぜひお願いしたい。

まちづくりについて意見を求める。特に若い人の意見を歓迎する。

■市民4 フェイスブックでお世話になっている。今日の件も載せる。

中部大学の学部を持って来るというのは、いきなりは難しいと思うが、三学協働でテクノパークの会社で何か調査とか試験をやったり研究したりという連携ぐらいならできそうだった。

公園は、この裏に竹折池、昔防災ため池と言っていたが、そういう池があり、それを活用すればバーベキュー広場とか釣り堀とかに使えそうな気がする。

■市民5 公園について。3 年前から子育てを始めた。小さい子の遊べる公園が武並町には少ないと感じる。榎ヶ根公園にもときどき行くが、それより市街の公園に行く。瑞浪恵那道路、駅南の開発に伴い、道の駅の周辺にある程度の公園を作って、市外からの人を呼びこめる公園ができれば、親同士、子ども同士の交流の場にもなって良いかと思う。

Wi-Fi (ワイファイ) について。仕事柄、海外からお客さんを迎えることがある。まず言われるのは、Wi-Fi (ワイファイ) のスポットが少ないということ。特に恵那、中津地区では市街地のみという認識だ。海外に出張に行くと、台湾では市内至るところでフリーの Wi-Fi (ワイファイ) が拾える。武並なのでそこまではいかないが、ある程度そういう環境が調べれば良いと思う。

■市民6 武並に住み始めて 16 年でまだ知らないこともあるが思っていることを話す。中学校の子が 2 人と小学生の子が 1 人いる。私は恵那市の子ども教室のコーディネートをやっているので小学校の出入りがよくある。学校の環境がとても良いと感じる。子どもを育てながら感じたことは、地域の人の温かさ。散歩に出れば誰かが声をかけてくれるとか。そういう温かさを感じながら、キャッチフレーズの「住めば好きになる たけなみ」を、身をもって感じている。今後道路、駅周辺が整備されて、県外から移住される方も増えてくると思うが、今の武並の良さを残しつつ、移住して来た人も暮らし良い武並町になれば良いと思う。いつも思うのは、今の私の子どもたち、孫たちが安全、安心に暮らせるまち

づくりができると思う。移住した人も不安なく暮らせる町ができれば良いと思う。

■市民7 武並の美濃に住んで 50 年になる。岐阜県スケート連盟の副会長と、恵那スケート場の運営委員長だ。スケート場は、スケート以外にもいろいろなイベントで、マラソン、操法、お祭り、いろいろな方々の利用がたくさんあるが、道路と駐車場にイベントごとに悩んでいる。よろしくお願ひしたい。

国体は今年度青森県で行う。来年度恵那で行うが、愛知県と岐阜県とかけもちで、両方で行うという運営。今、カーリングやフィギュアスケートの選手が非常に増えてきているので、冷凍機や製氷能力を有効に使い、30m、60mというスケート場を造ると、フィギュアスケート、ショートトラックの大勢の者が一年中恵那に来る。今、30m、60mの室内リンクは足りないばかりで、愛知県、静岡県や長野県いろいろなところまで遠征するという状況だ。できれば国体もスピードだけでなくショートトラックやフィギュアスケートと一緒にやれるような恵那になっていくと良い。

今の恵那のスケート場は全国で屋外のスケート場では使用人数が 1 位で、どこのリンクよりも評判が良い。競技会をやってほしいと、どんどん日本のスケート連盟や体育協会から来ている。通年やれる室内リンクの計画もお願ひしたい。

■市民8 交差点の話で、市長から計画を伺い、なるほどと思った。私は交通安全委員と消防団をやっている。皆さんからの意見で、国道 19 号の竹折の交差点が、安全対策が必要な 66 カ所の中に入っているのか確認したい。見た目ではガードレールがあるが、車が入ってしまうような隙間がある。少し前にもその交差点で事故があった。車が歩道の中に突っ込んだと聞く。小学生の通学の時間帯と重なっていた。大津の事故のようなことが起こり得た。一見ガードレールがあるので安全対策が必要ではないという判断になるが、現実には車が入ってしまうので、安全ポールなどにより車が止まるようなガード柵も検討してほしい。喫緊の課題として市長からも意見をいただきたい。

■市長 順に回答する。

中部大学の件。提案として胸にしまい、中部大学にまた行ってくる。

公園の件。地域の中で検討して、どこが良いかも検討してほしい。

市民5さんから、公園は駅、道の駅周辺が良いということ。Wi-Fi（ワイファイ）、今は観光地優先で整備してきた。今年は防災拠点となるところ、避難所を集中的にやっている。これ以降、公共施設、人の集まる場所を中心に整備も進んでいくと思う。

市民6さんから、住みやすい町だということ。これからもそんなことを続けていきたいので、お気づきの点があれば振興事務所を通じて声を届けてほしい。

市民7さんから、ショートトラックのこと。その前にスポーツの話をする。スポーツツーリズムの切り口で。笠置峡でボート・カヌー乗り場を作った。4月に香港ボートチームも来たし、ポーランドのカヌーチームも視察に来た。ポーランドのカヌーチームはオリンピックの事前キャンプとして恵那市を選んだ。ポーランドは3、4本の指に入ると言われている。今回の東京オリンピックではメダル候補だ。そういう方々が恵那でキャンプをしてくれる。地元の子どもたちと交流してくれる。こういうチャンスがある。これは子どもたちにとっては強烈に印象に残るし、その思いが代々受け継がれるような、レガシーとして残せるような仕組みも考えていかないといけないと思っている。

同じように2021年の冬季国体が開催されることが決まった。7年ぶりになる。それぞれの思いがある中で恵那市に決めていただいた。2021年の冬の国体が開けるのは岐阜県内で恵那市だけだ。これを十分に活用したい。大きなインパクトがある。スポーツの大きな祭典で武並町が注目される。

ラリーも一生懸命やっている。WRCが決まったとこの場で言えると良かったが、新聞報道では、パリでは会議がもめてもう少し後になりそうだと聞いている。ただ、遠からず決まると思う。こうしたスポーツが、多くの皆様にこの場に来て楽しんでいただける、思い出にさせていただける、子どもたちの記憶に強烈に残すことができるということも可能性としてある。

こんな中で、新しいショートトラックを含めた屋内整備の要望をいただいたので、受け取り、可能性を探りたい。

竹折の交差点。承って後ほど回答する。ただし、武並では19号は危険な場所が多く、ときどき通行止めにもなるので、それも含め、瑞浪恵那道路の整備を急ぎながら、今ある道路の安全対策も要望する。また報告する。

■司会 武並地域自治区では、まちづくりについての意見、提案をいただいてこれから検討していく中で取り入れていきたい。提案があれば、お手元のアンケート用紙や後日振興事務所でも良いので提出してほしい。

市長お礼のあいさつ

■市長 限られた時間なのですべてお伝えすることはできないが、昨年、今年と進んでいる事業、恵那市を取り巻く環境、武並町が今取り組んでいるさまざまな事業やまちづくりについて議論いただきありがとうございます。皆さん、地域自治区会長、役員、中嶋市議も一緒に議論いただき有意義だった。ありがとうございます。

閉会

■地域自治区会長　ここでの意見をメモした。武並町駅周辺整備検討委員会や運営会議で詰めていく。まだ意見があれば提出してほしい。それを煮詰めてまた相談しながら、武並町の発展に向かって、若い世代の意見を特に入れて、次の 8 年後の完成を目途に、一層努力していきたい。市からも指導をお願いする。

[閉 会]